

第6回みどりの式典



「みどりの学術賞」 「緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰」が 授与されました

4月27日、東京都千代田区の憲政記念館で天皇皇后両陛下御臨席のもと、野田内閣総理大臣、鹿野農林水産大臣ほか約400名が出席し、第6回「みどりの式典」が開催されました。

内閣総理大臣(内閣府)が主催する「みどりの式典」は、「みどりの日」についての国民の関心と理解を一層促進し、「みどり」についての国民の造詣を深めるため、「みどりの月間」(4月15日～5月14日)中の行事の一環として開催されており、「みどりの学術賞」および「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の授与が行われます。

第6回みどりの学術賞を受賞した中村太士氏なかむら たくしは、受賞者を代表して、「『みどり』は、食糧危機や環境問題等の

様々な課題の解決に大きく貢献するものと期待されています。東日本大震災において地域の人々の「絆」の象徴である『みどり』の復元は、震災復興でも大きな役割を果たすと確信しています。日本そして世界の『みどり』が保全され、持続的に利用され、多くの恵みを享受できるよう引き続き精進して参ります」と挨拶するとともに、研究への協力・支援に対する感謝の意を表明しました。





みどりの学術賞

「みどりの学術賞」は、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与し、その功績を讃えるものです。

第6回の受賞者は、新城長有氏と中村太士氏の2名で、それぞれの功績は以下のとおりです。



なかむら ふとし
中村 太士 北海道大学大学院農学研究院教授

生態系管理学の分野において、森林・河川・湿地等のさまざまな生態系で構成される流域に焦点を当てて研究を行い、洪水や山崩れなどの地表変動攪乱は、生態系の維持機構として重要な役割を果たしていることを明らかにするとともに、流域内の生態系の相互作用を解明しました。

そして、生物種と生息環境を基準にした生態系評価と復元の方法を確立し、この方法が日本の森林・河川・湿地の管理指針として定着するなど、流域生態系の管理手法の確立に大きく貢献しました。



(代理受賞：新城長一郎氏)
しんじょう ちょうゆう
新城 長有 琉球大学名誉教授

育種学の分野において、世界各地のイネの栽培品種や野生種を調査し、従来存在しないと考えられていたイネの細胞質雄性不稔系統をインド・バングラデシュ地域に由来する4品種のイネから発見するとともに、その遺伝様式を明らかにしました。

これをもとに雑種イネを育種するための基本材料を開発し、この学術成果が中国などにおける雑種イネの育成、米の増産に大きく寄与するなど、育種学及びこれに係わる稲作技術の発展に大きく貢献しました。

緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰は、緑化活動の推進、緑化思想の普及啓発に顕著な功績のあった個人・団体について内閣総理大臣が表彰するものです。

平成24年は、個人が2名、団体が6団体、地方公共団体が1団体、学校が3校、企業が1社の計13者・団体が受賞しました。

●個人

川田淳(北海道河東郡音更町)

楠美タヒ(青森県青森市)

●団体

株式会社ケーエムエフ 花泉工場(岩手県一関市)、浪江植林ボランティア(福島県双葉郡浪江町)、笠間市立友部中学校(茨城県笠間市)、特定非営利活動法人フォレストぐんま21(群馬県前橋市)、高崎市立矢中学校(群馬県高崎市)、国営昭和記念公園こもれびの里クラブ(東京都立川市)、特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議(神奈川県横浜市)、富山市立大久保小学校(富山県富山市)、特定非営利活動法人ひょうご森の倶楽部(兵庫県神戸市)、飯南町(島根県飯石郡飯南町)、馬野原夢街道(島根県邑智郡邑南町)

※各賞の詳細な功績等については、以下のホームページをご覧ください。

みどりの学術賞 http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/pdf/120420_1-01.pdf

緑化推進運動功労者表彰 http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/pdf/120420_1-02.pdf